

辰年
やはば

今年辰年。かつて辰年の矢巾町で起こった出来事を集めてみました。

昭和51年(1976年)



町民憲章・シンボルを制定

住みよいまちづくりのため町民憲章を制定。同時に町のシンボル「ゆり」「かっこう」「まつ」も決定しました。

昭和63年(1988年)



不来方高校が開校

町内初の県立学校である不来方高校が開校しました。同校の周辺地域は開校を機に、宅地造成などの開発が進みました。

平成12年(2000年)



さわやか号が本格運行

町循環バス「さわやか号」の運行が始まった年でした。現在の町の公共交通は「やはばす」、「のりあい号」があります。

平成24年(2012年)



徳丹城造営から1200年

西徳田の国指定史跡「徳丹城」が弘仁3(812)年頃の造営から1200年となり、古代平安行列の再現などが行われました。

新春アルバム・プレイバック2023

未来への鼓動

令和5年は「4年ぶり通常開催」という言葉が多くの場面で使用され、人々のさまざまな活動が再開された年となりました。主な話題を振り返ります。



季節の行事が4年ぶり通常開催

感染症の影響により中止や規模縮小が続いていた各種行事が、コロナ禍前と同規模で再開された年となりました。

各種イベントの出演者、来場者ともにマスクを外して参加する様子も多くみられ、さまざまな場面で町民の笑顔が広がりました。

写真は7月に開催された町夏まつりです。ステージイベントでは音楽団体が熱演した他、会場にはさまざまな屋台が出店し、多くの来場者でにぎわいました。

4月に行われた徳丹城春まつりの中で、チャグチャグ馬コパレードが初めて行われました。滝沢-盛岡間の印象が強い行事ですが、古くから町内で育てられている馬も参加しており、町内でのパレード開催が切望されていました。

パレードは医大通2丁目の県消防学校から、春まつり会場の徳丹城跡までの約2^{キロ}で実施。町道中央1号線の歩道では多くの観覧者が、初夏の風物詩として行われる行事の雰囲気を楽しみました。



チャグチャグ馬コ町内で初のパレード



南昌山に新展望台 宮沢賢治モチーフに

町のシンボル・南昌山山頂の新しい展望台が完成。6月の山開きに併せてお披露目しました。

県立産業技術短期大学校と連携し、宮沢賢治の物語の世界観などをモチーフにデザイン。町出身で賢治の親友の藤原健次郎、南昌山と賢治との関わりが分かるパネルなども設置。そのつながりから、山開きの登山には賢治の実弟・清六さんの孫で林風舎の宮澤和樹社長も参加しました。

謹賀新年



矢巾町長 高橋 昌造

令和6年 元日

あけましておめでとうございませう。町民の皆さまにおかれましては、健康やかで希望に満ちた輝かしい新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。そして、日ごろの町勢発展に対するご理解とご支援に、心から感謝いたします。

今年、本町のさらなる躍進と発展、そして地域コミュニティを大切にした行政運営を推進し、多種多様な課題に地域と共に取り組みながら、町民お一人おひとりに寄り添い、手を取り合い未来へ前進する年にしたいと考えています。

昨年は、SDGs（持続可能な開発目標）の基本理念のもと「誰一人取り残さない」、笑顔があふれる町とするため、町民の幸福の実現に向け5つの重点項目を掲げて施策を推進しました。

もに生きる町づくり条例「制定など、安心して生活できるまちづくりを進めました。

「住環境の整備」では藤沢第2、田中、下花立の3地区の大規模宅地開発が進み、移住定住施策を大きく推進することができ、地域の活性化が期待されます。

「産業の活性化」では、徳田橋の供用開始が間近であり、一般国道4号盛岡南道路の事業化決定も併せて今後、町の交通アクセスは格段に向上することとなります。また、西部地区には、東北エリア最大級のマルチテナント型物流施設「プロジスパーク盛岡」が開業。国道4号沿線の企業誘致による開発と合わせ、産業の活性化、地域活性化、雇用の創出につながるそうです。

「デジタルトランスフォーメーション」では、日常生活でもデジタル化は急速に進み、日々の暮らしを豊かにしています。町では行政サービスのデジタル化、マイナンバーカードを利用したオンライン手続き

の推進、住民総合ポータルアプリ「やはばナビ」などのリリースにより効果的な行政情報の発信および町民の皆さまの利便性向上を図りました。

「共創と近助によるまちづくり」では、本町のより良い未来のため、将来世代の意見を町政に反映させる取り組みを推進しました。数十年後を生きていく町民になりきり、現代の町に必要なことを考える「フューチャーデザイン」の手法をさまざまな機会を捉えて活用。この手法を用いた町民参加のワークショップでは、未来につながる多くのアイデアが生み出されています。今後も、社会環境が大きく変化する中で隣近所、地域コミュニティがお互いに支え合うことや、町と町民のさらなる心の通う関係性の構築を進めます。

良い町づくりのため、さらなる本町の発展と町民福祉向上のため、全身全霊をささげて町民の皆さまと共に歩みます。そして、未来ある子どもたちが「ふるさと矢巾」を誇りに思い、そして将来の矢巾を支え、自分らしさを見つけられるまちを目指します。

令和6年の干支は「甲辰」であり、古くからの言い伝えでは「春の日差しが、あまねく成長を助ける年」とされ、これは春の暖かい日差しが大地の全てのものに平等に降り注ぎ、急速な成長と変化を誘う年になることとです。辰は「振るう」に由来しており「自然万物が振動し、草木が成長して活力が旺盛になり形が整う状態」を表し、大きな飛躍を連想させることから、本町が雲竜の昇天のごとく町民の皆さまと将来に向かって飛躍につなげる年としてまいります。